

令和6年度
(2024年度)

吹田市高齢者見守り体制づくり講演会・

地域ケア会議研修会(合同企画)

地域福祉市民フォーラム

を開催しました！



当時は105名の方に御参加いただきました！
(高齢者見守り活動協力事業者、民生・児童委員、地区福祉委員、介護保険サービス事業者、地域包括支援センター、他)

令和6年度 地域福祉市民フォーラム
地域ケア会議 & 高齢者支援事業者による見守り体制づくり研修と合同開催

with地域

2/13
木曜日
午後2時～
午後4時

～支えあいが創り出す私たちらしい暮らし～

「誰かと気軽に話したい。」「ふらっと立ち寄れる場所がほしい。」「同じ悩みを抱える人の話を聞きたい。」地域では目的に合わせたいいろいろな居場所が存在します。

このフォーラムでは、地域で居場所づくりを行う団体による活動報告を通して、居場所の必要性や私たちにできることは何かと一緒に考えていきます。

会場:吹田市文化会館
メイシアター1階 集会室



- 1 本事業における市の実施体制及び地域づくり事業について
- 2 地域での身近な居場所づくりを行う団体等による活動報告
- 3 参加者の皆さんによる意見交換
「どのような居場所が必要？こんな居場所が嬉しい！」

<https://www.city.suita.osaka.jp/kenko/1018735/1018742/1018747/1036611.html>

QRコード→



今回のフォーラムでは導入に加え、3つの団体に活動報告をしていただきました。

フォーラムを通じて、重層的支援体制整備事業の詳細と、世代や属性を超えた住民同士が交流できる場・居場所づくりが、地域の支援体制を強化していくという流れを知ることができました。

本市はこれからも市民の皆様、事業者の皆様のお力添えをいただきながら、地域づくりも含めた地域共生社会の構築に取り組んでまいります！

(裏面に、フォーラム内容の抜粋や参加者の声を掲載しています！)



導入

吹田市福祉部

福祉総務室



重層的支援体制整備事業とは、地域活動を活かしながら複数の支援事業を一体的に実施することで、市の支援機関や地域団体、地域住民が連携して課題を抱える世帯への支援体制を構築し、地域共生社会の実現を目指すものです。そのためには、相談を受けてから地域へつなぐまでをスムーズに行えるよう、支援機関や地域団体と協力し、支援の連携体制を整備することが求められています。

世代や属性を超えた住民同士の交流の場の確保や、住民と地域活動・地域資源がつながる環境を整備するなど、支援体制の基盤となる地域づくりが重要です。



活動報告

西山田ふらっとサロン

(相談員 濑波様・高様)

西山田ふらっとサロンは、市民の誰でもが世代を超えてご利用いただける「地域交流の場」を目指し誕生しました。100名以上の幅広い年代のボランティアによって支えられ、様々な活動を行っています。

介護予防体操や緑地公園の観察会、ボランティア研修会などを定期的に開催し、地域住民が交流できる機会を設けています。

2018年には「こどもふらっと」を発足し、こどもたちの居場所づくりを目指して活動しています。



参加者からの声

- ✓ 多世代の方、同じ困り事を抱えた方たちと繋がっていく事が大切であり、これからも広げていってもらいたいと思います。
- ✓ 自分の住む地域以外の活動を知る事が出来て良かったです。ぜひ参考にしたいと思います。
- ✓ 居場所づくりの大切さがわかりました。多機関や住民との繋がりを大切にし、支援に繋げていきたいと思います。
- ✓ 「あんなことしたい」「こうなったらいいな」という想いから始まっているので、どの団体もとってもあたたかい居場所だと感じました。
- ✓ 人のつながりってどんな形であっても大切だと思いました。

活動報告

爽和会

(代表者 静間サハ子氏)

新佐竹台住宅は地域コミュニティが希薄であったため、地域の独居高齢者などが気軽に集まり交流できるような場を目的に開催しています。

毎週火曜日には、いきいき百歳体操や脳トレなどを実施しています。活動後はお茶会を開催し、住民間の交流を図っています。

また、地域包括支援センターへ相談しながら、様々な専門職（吹田警察、薬局、民間企業など）による講座を毎月1回開催しています。



活動報告

不登校ひろば@吹田

(管理者 井上晶子氏)

不登校の子を持つ保護者のための交流の場、支援の場として活動。

LINEの機能「オープンチャット」を活用し、匿名で気軽にいつでも参加できるオンラインコミュニティを運営しています。

吹田市内各所にて月に1回「おはなし会」を開催しています。佐竹台のコミュニティカフェ「さたけん家」では、毎週水曜日に保護者の居場所づくりを行っています。

不登校は社会全体の課題であり、親の責任ではありません。一人一人が当事者意識を持って「みんなで不登校を考える」社会になるよう働きかけています。

